

海外子会社のイニシアティブの分析枠組に関する一考察 —多次元な制度的視点を焦点として—

福島大学経済経営学類 渡邊万里子

1. はじめに

本報告の目的は、海外子会社のイニシアティブの分析枠組を新たに議論することである。海外子会社のイニシアティブは、海外子会社が MNCs 内外の市場機会を認識し、資源を投入していく企業家活動である(Birkinshaw, 1997)。こうした活動は、海外子会社の業績や能力、地位を向上させるだけでなく、MNCs 全体の戦略や各国市場環境に影響を及ぼすことが指摘されている。その背景には、海外子会社が本国親会社 (HQ) や現地アクターが認識できない機会を捉え、MNCs 内外の資源を創造的に動員できる潜在性を持った組織である点が挙げられよう。事実、1998 年以降から、海外子会社のイニシアティブは、MNCs 内外環境を進化させる推進力として、その重要性が注目されている。本報告では、関連研究の貢献と限界を再検討し、新たな分析枠組と導入的事例を提示していく。

2. 海外子会社のイニシアティブの分析枠組の検討

2.1. 先行研究の再検討

海外子会社のイニシアティブ研究では①イニシアティブの類型、②企業・環境レベルの要因・結果・③プロセスが主な研究課題とされており、多角的な視点から解明が進められてきた。しかし、先行研究では、イニシアティブを推進する海外子会社内部のアクターと多次元なコンテキストの相互作用の効果が明らかにされていない。そのため、海外子会社が本国親会社と交渉しながら、「どのように MNCs 内外に影響を及ぼすような革新的イニシアティブを完遂するのか」は未解明である。本報告では、イニシアティブの(1)推進アクターの特徴、(2)MNCs 内外のコンテキストとの相互作用に焦点を絞り、新たな議論を提示する。

(1)海外子会社マネジャーの特徴: ミクロレベルのアクターの行動は構造的な制度形態によってのみ形成されるのではなく、個人の関心や合理性によっても形成される。MNCs の海外子会社の場合、MNCs 内外の制度コンテキストに加えて、推進アクターの属性(自律性やパワー、モチベーション、国籍、キャリア志向)が海外子会社のイニシアティブ促進の鍵となり、戦略的資源動員行動、ひいては達成結果に違いをもたらすことが指摘されている(Dörrenbächer & Geppert, 2009)。

(2)MNCs 内外のコンテキストとの相互作用: 昨今では、環境問題や貧困などの問題解決への貢献が企業の新しい機会として認識されており、多様なステークホルダーへの戦略的対応が重要とされている。そして、そのような社会問題を抱えながら急成長するインド・中国などの巨大新興市場の海外子会社発の破壊的イノベーションは既存先進国市場にも影響を及ぼしている。このような動向を踏まえると、海外子会社のイニシアティブでは、対内外のステークホルダーと相互作用しながら、企業・市場環境レベルの企業家活動を推進していくことが求められる(Schmid et al., 2014)。

2.2. 多次元な制度理論的アプローチの検討

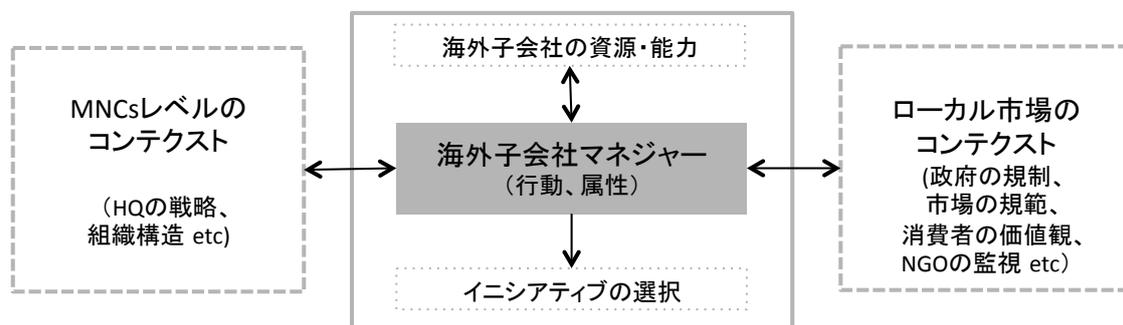
本報告では、海外子会社のイニシアティブのアクターの(1)属性と行動、(2)MNCs 内外のコンテキストとの相互作用を包括する分析枠組として、制度理論的視点を多次元に応用したアプローチを検討する。

制度理論は、アクターが埋め込まれているコンテキスト(規制、規範、認知的体系)の影響(Scott, 2001)とそれに対応するアクターの戦略的対応行動(Dijk et al., 2011)を説明する枠組を提供する。この枠組を援用すると、海外子会社はMNCs内外の複雑な制度ロジック(HQ、ホスト国市場)に埋め込まれた組織として捉えることができる。そして、多様な制度的条件への適応を要求されながらも(Bouquet & Birkinshaw, 2008)、多様なステークホルダーと相互作用しながら企業-市場レベルの企業家活動を達成していくアクターを説明する枠組として有用であることが考えられる。

3. 導入的事例調査と結果

本報告では、日系MNCの海外子会社1社の製品開発活動事例(ローカル市場イニシアティブ→対内市場・グローバル市場イニシアティブ)を中心として、他の海外子会社数社の補完的事例も追加しながら事例分析を行う。分析では、海外子会社のイニシアティブにおける①アクターの属性や行動、②MNCs内外のコンテキスト(HQの経営陣・関連事業部、姉妹海外子会社、現地の政府、研究所、同業他社、消費者、NGOとの制度化された利害関係)の相互作用について時系列分析を行う(図1)。分析結果から、推進アクター(海外子会社の経営陣、開発部門トップ・部課長)の属性や戦略的対応行動がMNCs内外の既存の利害関係を変容させ、イニシアティブの推進・達成に影響をもたらす可能性が示唆された。

<図1> 海外子会社のイニシアティブの分析枠組



参考文献

- Birkinshaw, J. (1997). Entrepreneurship in multinational corporations: The characteristics of subsidiary initiatives *Strategic management journal* 18(3), 207-229.
- Bouquet, C., & Birkinshaw, J. (2008). Managing power in the multinational corporation: How low-power actors gain influence. *Journal of Management*, 34(3), 477-508.
- Van Dijk, S., Berends, H., Jelinek, M., Romme, A. G. L., & Wegeman, M. (2011). Micro-institutional affordances and strategies of radical innovation. *Organization Studies*, 32(11), 1485-1513.
- Dörrenbächer, C., & Geppert, M. (2009). A micro-political perspective on subsidiary initiative-taking: Evidence from German-owned subsidiaries in France. *European Management Journal*, 27(2), 100-112.
- Schmid, S., Dzedek, L.R., & Lehrer, M. (2014). From rocking the boat to wagging the dog: A literature review of subsidiary initiative research and integrative framework. *Journal of International Management* 20(2), 201-218.
- Scott, R.W. (2001). *Institutions and Organizations* (2nd ed.). Thousand Oaks, CA: Sage Publications.